

無側枝性ギクの生育開花に関する研究

(第1報)定植時期と親株の越冬条件が生育開花に及ぼす影響

松本由利子

9月咲き無側枝性ギク5品種の親株を,施設内及び露地に植えつけ,これから得られた苗を,4月から6月までの間,2週間おきに露地に定植した。定植後,11日前後に摘心し,3本仕立てとした。

1. 摘心後の萌芽数は,5月下旬定植以降になると減少する傾向にあった。
2. 施設内で養成した越年親株から生産された苗を,6月に定植した区で不萌芽株が発生した。
3. 花茎から発生する側枝の発生節位は,5月上旬定植までは定植時期が遅くなるにつれて低下した。1茎当たりの発生数は5月下旬から6月定植で最も少なくなった。
4. 定植時期が10週間遅れることによって開花が遅れ,その程度は品種によって差異がみられた。
5. 露地で養成した越年株を親株とした場合,施設内のものに比べ開花期が遅延し,茎長が長くなる,開花節数が増える等の傾向が認められた。